

## 平成 28 年度 IYP「石狩の未来を考える子ども議会」 議事録

日時 平成 28 年 10 月 16 日（日）14 時 00 分～16 時 25 分

場所 石狩市役所 議場

### 次第

- 1 議員入場（司会：北海道石狩翔陽高等学校 2 年 星京輔議員）
- 2 激励の言葉（石狩市議会副議長 長原徳治）
- 3 開会
- 4 平成 28 年度 IYP「石狩の未来を考える子ども議会」概要説明
- 5 議事

日程第 1 会議録署名議員の指名

日程第 2 会期の決定

日程第 3 提案・質問

#### 『スポーツの極み、俺ら党』

- ・花川北中学校～総合体育館の建設について
- ・花川中学校～ソフトボール競技合宿誘致について

#### 『石狩みんなをつなげ隊』

- ・聚富中学校～厚田地区の学校統合について
- ・厚田中学校～道の駅による地域の活性化について

#### 『安心してください～安全ですから！党』

- ・花川南中学校～交番の誘致について
- ・石狩南高校～学校前の街灯設置について
- ・樽川中学校～生活道路の整備と環境について

#### 『石狩の現状に“ちょ、まてよ”隊』

- ・石狩中学校～石狩さけまつりの今後の発展について
- ・浜益中学校～浜益フォーラムをきっかけとした、新たな商品開発の考え方について
- ・石狩翔陽高校～石狩市の子育て支援の現状と情報発信について

- 6 講評（石狩市議会議長 伊藤一治、石狩市長 田岡克介）
- 7 閉会

## 出席者

### 子ども議員（敬称略）

|            |   |        |   |       |   |           |   |
|------------|---|--------|---|-------|---|-----------|---|
| 大西 雄真      | ○ | 齊藤 和馬  | ○ | 佐藤 蒼人 | ○ | 中島 瑠大     | ○ |
| 北村 帆花（副議長） | ○ | 秋山 光月  | ○ | 小泉 瑠華 | ○ | 藤本 涼平（議長） | ○ |
| 福井 誠弘      | ○ | 梅津 祐太  | ○ | 齋藤 佑馬 | ○ | 日隈 健太     | ○ |
| 飯田 結衣      | × | 武田 紗優貴 | ○ | 田中 幸乃 | ○ | 木村 拓哉     | ○ |
| 大橋 梨々華     | × | 今橋 与歩  | ○ | 進藤 玲音 | × | 橋本 勇太     | ○ |
| 星 京輔（司会）   | ○ |        |   |       |   |           |   |

## 来賓

|              |       |
|--------------|-------|
| 市議会議長        | 伊藤 一治 |
| 市議会副議長       | 長原 徳治 |
| 監査委員         | 千葉 正威 |
| 議会運営委員会委員長   | 片平 一義 |
| 厚生常任委員会委員長   | 加藤 泰博 |
| 建設文教常任委員会委員長 | 上村 賢  |

## 説明員

|          |        |          |        |
|----------|--------|----------|--------|
| 市長       | 田岡 克介  | 副市長      | 白井 俊   |
| 教育長      | 鎌田 英暢  | 常勤監査委員   | 加藤 龍幸  |
| 総務部長     | 及川 浩史  | 企画経済部長   | 小鷹 雅晴  |
| 産業振興担当部長 | 百井 宏己  | 渉外調整担当部長 | 松田 裕   |
| 財政部長     | 大塚 隆宣  | 環境市民部長   | 新岡 研一郎 |
| 保健福祉部長   | 三国 義達  | 健康推進担当部長 | 我妻 信彦  |
| 建設水道部長   | 清水 雅季  | 生涯学習部長   | 佐々木 隆哉 |
| 生涯学習部次長  | 松井 卓   | 厚田支所長    | 西田 正人  |
| 浜益支所長    | 佐々木 政人 |          |        |

## 事務局

|           |                         |
|-----------|-------------------------|
| 子ども政策課    | 伊藤 学志、青木 宏美、村田 範江、厂原 一輝 |
| 議会事務局     | 吉田 宏和、富川 雅枝、佐藤 雅人       |
| 浜益支所生涯学習課 | 菊地 直人                   |

傍聴者 44名

## 【1 議員入場】

### ○司会

皆さんこんにちは。

IYP の石狩翔陽高校の星です。

これから子ども議員が 1 人ずつ入場します。議場の皆さんは拍手でお迎えください。

それでは、子ども議員の入場です。

### (子ども議員紹介)

これで子ども議員の紹介を終わります。

今日は皆さんよろしくお願ひします。

## 【2 激励の言葉（石狩市議会 長原徳治副議長）】

### ○司会

それでは、開会に先立ちまして、石狩市議会、長原徳治副議長より、激励のご挨拶を頂きたいと思ひます。

### ○石狩市議会 長原副議長

IYP 子ども議員の皆さんこんにちは、この子ども議会は昨年に引き続き 2 回目の開催と伺っております。また今年石狩市が町から市になって 20 周年を迎える年でもありまして、その記念事業としても位置づけられ、市内の中学校や高校を代表する 21 名の皆さんにご参加いただいております。皆さんのご参加を心から歓迎申し上げますとともに、感謝を申し上げたいと思ひます。

私たち石狩市議会のお話を少しさせていただきますと、現在 21 名の議員で構成されておまして 5 つの会派というグループに分かれて活動をしています。議会は定例会というものが年に 4 回開催され、そこで条例や予算などの審議を行ったり、市政について質問したりをしています。普段は今皆さんがお座りになっている席にちょうど私たちが座っておりまして、市長や教育長へ質問をし、議論をしているところであります。またそのほかに 4 つの常任委員会と特別委員会というのがありまして、日常的な議案の審議も行っております。

今日は是非 IYP の皆さんの目線で市役所の仕事をチェックしていただき、石狩市の未来に希望もてる提案をいただきたいと期待をしております。多少の緊張をされているような顔も見えますけれども、ご心配いりません。皆さんは普段、学校の生徒会で活躍をされていると伺っておりますので、普段どおりの力を発揮していただければいいかなと思ひます。この子ども議会の体験を将来皆さんが石狩市、北海道あるいは国において行われますいろんな政策について自分の力で考えてそれを意見として伝えていくスキルを身につけるきっかけになれば大変嬉しく思ふわけでありまして。

実は、今年のこの場で出されましたみなさんの質問の一部は、すでに市政に取り組みされて活かされている部分もあります。今日は皆さんがどんな視点でどんな質問をされるのか、とても楽しみにしております。市長・教育長を始め、市役所の人たちも一生懸命に皆さんの質問に答えてくれると思ひますので、頑張ってくださいと思ひます。

最後になりますが、IYP の皆さんを始め、これまでの活動をご支援いただきました保護者の皆様、教職員の皆様や地域の皆様にも心から感謝とお礼を申し上げまして、私の開会の挨拶とさせていただきます。

きます。今日はどうぞ頑張ってください。ありがとうございました。

○司会

長原副議長、ありがとうございました。  
それでは、まもなく子ども議会の開会です。

【3 開会】

○議長

皆さん、こんにちは。  
ただいまから、平成28年度IYP「石狩の未来を考える子ども議会」を開会いたします。  
私は議長を務める樽川中学校、藤本涼平です。よろしく申し上げます。本日の日程は、お手元に配布のとおりです。

【4 平成28年度IYP「石狩の未来を考える子ども議会」概要説明】

○議長

続いて、平成28年度IYP「石狩の未来を考える子ども議会」の概要を説明します。  
私たち子ども議員は、IYP（石狩ヤングプロジェクト）のメンバーとして、石狩市内の各中学校・高校から推薦されています。  
IYPとは、子どもたちが意見を表明する機会やまちづくりに子どもの視点を取り入れるために作られたプロジェクトチームで、平成22年から活動しています。今年、子ども議会のために、7月24日からこれまでに5回のミーティングを行い、各校生徒会で考えてきた提案内容をグループワークで深めてきました。  
今日は、田岡市長、鎌田教育長を始め、市役所の皆さんから、私たちの提案や質問について答弁をさせていただきます。これから私たちが発表する意見が、今後の石狩市のまちづくりに活かされ、誰もが「素晴らしいまちだ！」と思う石狩市になることを願います。これで説明を終わります。

【5 議事】

○議長

それでは議事を始めます。  
日程第1 会議録署名議員の指名を議題といたします。  
会議録署名議員は、石狩翔陽高校、星議員を指名いたします。  
日程第2 会期の決定についてを議題といたします。  
お諮りいたします。  
今議会の会期は、本日1日間としたいと思っております。ご異議ありませんか。  
（異議なし）  
ご異議なしと認めます。したがって会期は本日1日間と決定いたしました。  
それでは、これから  
日程第3 提案・質問に移ります。  
学校ごとに質問を行います。順序に従い順次許可いたします。

最初は「スポーツの極み、俺ら党」の質問です。よろしくお願いいたします。

#### 【5 議事(1)花川北中学校】

##### ○議長

初めに、花川北中学校佐藤議員、中島議員よろしくお願いいたします。

##### ○花川北中学校 中島議員

こんにちは。「スポーツの極み、俺ら党」です。

僕たちのテーマは「5W1H」。意味は、When（いつでも）、Where（どこでも）、Who（だれでも）、What（なんでも）スポーツができるまちに。Why（なぜ?）、Health（健康のために）です。このテーマにした理由は、「もっとスポーツをしたい」「やる場所を増したい」「子どもからお年寄りまでみんなが健康になってほしい」という願いを込めて決めました。

また、みんなが健康になることで、医療費の負担が減るだけでなく、毎日楽しく過ごせて、生きがいを見つけることにもつながると思うからです。

では、質問していきたいと思いますので、市理事者におかれましては、明解かつ簡潔な答弁を期待します。

##### ○花川北中学校 佐藤議員

僕たち花川北中学校からは、総合体育館の建設についてご質問します。

僕たちは、石狩に総合体育館がほしいと思いました。その理由は、石狩をもっとスポーツが盛んなまちにしたいからです。

花川北コミュニティセンターの前に「市民ひとりスポーツ」と書かれています。とはいうものの、競技スポーツを気軽にできる施設は市内には少ないと感じています。花川北コミュニティセンターや花川南コミュニティセンターは普段イベントや予約で使えないことが多く、野球やテニスを本格的にプレーする場所も身近には少ないと思います。公園はいろいろな人が利用しているのでそうもいきません。

石狩に総合体育館があれば、季節、天候に左右されることなく、気軽に、本格的にスポーツができ、スポーツを通して知らない人と交流することもできます。さらに大きな大会やイベントを開くことができるようになるので、市民がスポーツをしたり、観戦したりすることで、スポーツにふれあう機会が格段に増え、地域の活性化にもつながると思います。

以前、ホームページで市が総合体育館建設について検討していることを知りました。

そこで、総合体育館の建設について市長に伺います。

1点目、総合体育館の必要性について、どうお考えですか。

2点目、建設費用はどのくらいかかるのですか。

3点目、今、建設の話はどこまで進んでいますか。

##### ○議長

田岡市長

## ○市長

それでは佐藤蒼人議員、中島瑠大議員のご質問にお答えをさせていただきたいと思います。

総合体育館の建設についてのご質問でございます。

質問にもございましたように市では平成9年にスポーツ健康都市宣言を行っております。市民の皆さんがスポーツ活動や、様々な交流を通しながら健康体力づくりを進めるという意味で、このように宣言を行ったところであります。

現在市内にはB&G海洋センターやサン・ビレッジいしかり、コミュニティセンターなど、屋内でスポーツができる施設が決して満足とはいえませんがございます。その一方で全道大会を開催できる体育館や、皆さんのイメージする、あるいはご希望するような規模のような体育館というのはない、少し規模が足りないというような状況だと思っております。

これらのテーマにつきましては、ここ数年、市議会や各委員会においても再三取り上げられて議論を重ねてきている経過でもあります。市民の多くの皆さんが希望してやまないということも、充分承知をして何とか総合体育館を造ることができないか市としても検討を始めております。

2番目にお尋ねの、建設にいくらかかるかということについては、これは正式に概算設計も何もしておりませんが、他の都市の似たような条件のところていくと40億から60億くらいのお金が必要ではないかと言われております。

ただ、今回の東京オリンピックも当初300億で済む予定が600億になったように、非常に建設の条件が流動的になっております。たとえば東日本大震災によって建設の資材が大変不足して高騰している、あるいは東京オリンピックをめがけて東京で工事がどんどん進められているということで、職人さんがいないといった状況などを含めると、これから材料費、人件費がさらに高騰するということも考えられます。

去年函館市が「このくらいのお金で誰かやっただけじゃないか」ということで建設会社に出したところ、建設会社は全員NO、「それではできません」となったという状況もありまして、相当な費用がかかるとしか今の段階ではお答えできません。おそらく学校3つ分くらいかかるのではないかと思っております。

また、その後も大きな施設ということになると維持管理費等を含めると、このひとつの事業を行うには相当な財政的な出動といいますか、お金が必要であると考えております。したがって現在、平成26年6月に市役所の中に総合体育館に係わる庁内検討会議を立ち上げまして、そこで総合体育館を建設するための財源といいますか、お金をどうするか予算をどうするかというような、あるいは必要な施設はどのくらいのものか、他のまちではどのような状況になっているかなどを調べ、ひとつの中間的な方向性をつけておりますが、まだ具体化には進んでおりません。

これからさらに精査する工事費、あるいは様々な国からの財源がなくては、市の財源だけでは到底かなわぬ事業でございますので、なかなか難しくなっている国家予算の中で、いかに体育館を造ることについてお金を持つてくるのが可能かを含めて、これからさらに建設にめがけて検討を重ねてまいるといのが現状であり、この問題の具体化についてはまだしばらく時間を必要するのではないかと考えております。以上です。

## ○議長

ただいまの答弁について、再質問はありますか。

花川北中学校中島議員

○花川北中学校 中島議員

ただいまの答弁に対しまして再度のご質問をいたします。

財源が課題との事でしたが、石狩市の負担を少なくする方法を考えてみましたので提案させていただきます。

ひとつは、北海道日本ハムファイターズ新球場の建設地が検討されています。そこに石狩市も誘致に乗りだしてみてもどうかと考えました。

しかし、交通アクセスの面で、石狩市には地下鉄やJRが無いので札幌ドームのように多くの観客を呼び込むことは難しいと考えました。

そこで次に、2026年札幌冬季オリンピック招致計画を利用することを考えました。

オリンピックは国を挙げて行うイベントのため、国が競技場建設を支援してくれると考えました。それだけでなく、競技場までのアクセスとして地下鉄や高速道路の建設まで支援してくれるかもしれません。

そして、オリンピックのために建設された競技場は、その後、総合体育館として使用すれば、建設費用は少なく済むと考えました。

運営は民間会社などが行えばいいと思います。そうすれば市の負担をできるだけ少なくできると思いますので、総合体育館の建設の可能性も高まるのではないのでしょうか。

この提案について、市長のお考えをお聞かせください。

○議長

田岡市長

○市長

それでは重ねてのご質問にお答えを申し上げます。

冬季オリンピックに関連して施設整備を図るということですが、たとえば石狩のソフトボールのグラウンドは国体の施設として当時作ったものであります。したがって大きな大会があると、札幌市で、あるいはその周辺等においてそういう施設が必要であり、新たに必要な場合は検討の対象になると思いますが、昨今の世界的な情勢から行くと既存の施設を如何に活用するかということが中心となって、なかなか新しい施設を作らない、あるいは古い施設の規模を拡大するというような方向になっております。それは日本の政府がオリンピックに莫大な予算を投ずるほど財政的に余裕がなくなっていることがひとつ大きな原因であると思います。

また日本は、そういう大きな事業に民間が寄付をするというような寄付の文化がほとんどない国です。ですからほとんどが税金で行うことを考えますと、極めて限られた財源の中で行うということで、札幌でオリンピックを行った昭和40年代のような規模の施設拡大はほとんど不可能に近いのではないかと思います。

また交通についても非常にシビアな採算性が国の法律で求められることとなります。法律がひとつずつ、地下鉄の許可を出すこととなります。ですから札幌石狩間で新たな法律が制定されないとできないことから大変厳しい垣根があって、交通の整備あるいはスポーツの施設についても、かねての手法はもう一度やろうとしても難しいと思います。

とはいえ、そういったこともチャンスのひとつであることには間違いありません。私たちはこれ

から都度、国に向かってそういうチャンスの中で何とか市の方にお金が来るように運動していきたいと思っております。体育館の問題は本当に切実な問題で特に若いあなた方にとって、総合スポーツ館がないことについてはやっぱりスポーツの一番したい年齢の皆さんにとっては悔しい気持ちだと思っておりますのでチャンスを捉えながら何とか体育館を作っていくようにその道を探っていきたいと思っております。以上です。

○議長

ほかに再質問はありますか。

再質問がないようですので、最後に一言お願いします。

○花川北中学校 佐藤議員

最後に、これは質問ではありませんが、今ある施設を利用して小・中学生がスポーツできる環境を充実していただくことを提案します。

例えば、小中学生の場合、水曜日は職員会議などで放課後に時間ができます。その時間などに合わせて優先して利用できる日や時間帯を作るのはどうでしょうか。そうすれば、スポーツができる機会が増えると思いますので、そのことを要望して、僕たち花川北中学校の質問を終わります。ありがとうございました。

○議長

以上で、花川北中学校の質問を終わります。

続きまして、花川中学校の大西議員、齊藤議員、よろしくお願いします。

## 【5 議事(2)花川中学校】

○花川中学校 齊藤議員

僕たち花川中学校からは、ソフトボール競技合宿誘致についてご質問します。

2016年8月3日、東京オリンピックの追加種目を決める総会がブラジルのリオで開催され、ソフトボールが東京オリンピックの公式種目に採用されました。

この知らせに花川中学校のソフトボール部からは歓喜の声があがりました。

石狩では「ソフトボールのまち」として競技の普及に力を入れています。

僕たちの考えとしましては、石狩市からオリンピックに出場する選手が出た場合、石狩市のPRに繋がったり、有名な選手が訪れて指導してもらい機会がでたりすると思うので、まちが盛り上がると思います。

石狩市も日本代表合宿誘致に向け動き出したと聞いています。

そこで質問いたします。

1点目、合宿誘致によって、市長は石狩のまちにどのような効果があると考えますか。

2点目、今後、合宿誘致に向けてどのような取組み、PRを考えていますか。

○議長

田岡市長



○市長

大西雄真議員、齊藤和馬議員のご質問にお答えをさせていただきます。

ソフトボールが東京オリンピックの正式種目になったという段階では、石狩市役所の中にも歓喜の声が生まれました。このスポーツ種目が東京で実現することは、ご存知のとおりソフトボールのまちを標榜しておりますので、このなかで若い中学生あるいは高校生、小学生もいつかはそういうチャンスに恵まれるだろうということで石狩のグラウンドが、また石狩の持つておりますソフトボールへの情熱が、必ずや東京オリンピックにつながっていくのではないかと考えております。そして多くの選手が合宿に来るということは、当然マスコミがそれを取り上げてくれます。選手も色々なインタビューの中で石狩の良さをPRしてくれると思います。

何よりも選手の皆さんが来ることによってまちの人たちが、自分たちのまちがオリンピックに参加している、あるいは外国の選手が来る、国内の優秀な選手が来るということに対して、なんとなくワクワク感、高揚感が沸くというのが大きいと思います。

そういうことがおそらく石狩の様々な情報を世界に向かって放つことになり、観光や企業誘致にも繋がるでしょうし、あるいは石狩に行って住んでみたいという方もおいでになるのではないかと考えております。私たちはすでに具体的に行動に出ております。以前、全日本の監督をされていた宇津木監督も今は理事を務めていますが、何度か石狩を訪れております。石狩のことをよく知っているので、改めてお願いしたい。それから大きな会議があり、会議の間に少し時間をくれるということで、会長さんにもお会いして石狩のPRをして参りました。ぜひこれを実現に向けてこれからも官民一体となって行いたいと思います。

昨日今日もソフトボールのミズノオープン東北北海道大会という大変大きな大会が開催されております。今年最後の大会でグラウンドには様々な県から選手が来ていますが、スタンドには石狩市民がいないという状況になっています。ソフトボールもそういう大きな競技が開かれているということもPRしていないということも大きな原因だと思っておりますが、私たちはもしかすると東京オリンピックの華やかな部分だけにスポットを当てて誘致しようとしているのかもしれない。

その前にもう1回石狩のスポーツはソフトボールだと、部活に迷った時にはソフトボールの競技にもう少し一生懸命クラブ活動をやってみようかと、あるいは石狩で大きな大会があったら良い選手の競技を見に行こうというようなことが必要ではないかと思っております。そういった地道な市民活動や皆さんの活動のプラスαを含めて全体が石狩への注目が変わっていくのではないかと考えております。

それから、これからのPRについてですが、これはもうすでに組織を作っておりまして、市内の様々な産業界を含めて官民一体となった組織を作っております。その皆さんとPRに努めております。

何とか実業団の皆さんに理解をしていただきたいということで、今年は10日ほど実業団の女子チームが合宿に来てくれました。そういうところを通じながら、さらにお仲間や違うチームに石狩は魅力的だとか、あるいは石狩のグラウンドは素晴らしいとか、4面のグラウンドがあつてすべての練習が同時間にできるとか、雨が降ったときはすぐそばに屋根のついた体育館があります、あるいはもう1つはプールがありますということはおそらく選手を通じて伝わっていくと思いますので、これらを使ってぜひPRしていきたいと思っております。もちろん空撮をしたり、様々な動画で発信したりということも行っておりますが、今は通信ネットワークの時代ですから、そちらを通しながらもまたPRに努めているところです。これからもぜひ実施に向けて石狩市民総ぐるみで誘致に向かっていきたいと思っております。以上です。

○議長

ただいまの答弁について、再質問はありますか。  
再質問がないようですので、最後に一言お願いいたします。

○花川中学校 大西議員

最後にソフトボール合宿誘致の成功に向けて、僕たちにもできることがあれば協力していきたいと思います。そしてさらに大きなことを言わせてもらえば、この石狩の地で東京オリンピックのソフトボール競技が開催されることを希望して、僕たちの質問を終わりたいと思います。ありがとうございました。

○議長

これで、花川中学校の質問を終わります。  
以上で、「スポーツの極み、俺ら党」からの質問を終わります。  
発表を終えた2校に大きな拍手をお願いします。  
続きまして、「石狩みんなをつなげ隊」の質問です。よろしくをお願いします。  
まずは、聚富中学校の日隈議員よろしくをお願いします。

#### 【5 議事(3)聚富中学校】

○聚富中学校 日隈議員

こんにちは。私たち「石狩みんなをつなげ隊」は聚富中学校と厚田中学校で構成されたグループで、学校統合と道の駅建設をもとに、「地域交流(結束)を深める」をテーマに話し合いを進めてきました。まずは、聚富中学校から提案しますので、前向きな答弁よろしくをお願いいたします。

私たち聚富中学校からは、4年後に学校が統合されるにあたって、保護者の方々も会議で議論していると聞き、災害時の安全面など、厚田地区の学校統合についてご質問します。

まず、なぜ統合後の学校の場所が厚田中学校になったのか、その判断になった経緯についてです。

「学校整備の具体策(案)について」という資料において、地域防災の観点から厚田中学校が最も相応しいとあるのですが、具体的にどのような点で相応しく、どのように選ばれたのかお聞かせください。

次に、新しくできる学校についてです。

現在の厚田小学校には、一般開放の「あいかぜ図書館」というものがあり、それを続けて欲しいと思っています。保育所も入ると聞いていますが、勉強しているときの集中を妨げないような工夫をしてほしいと思っています。また、統合後の学校でも、聚富や望来のように畑を設置することを提案します。野菜作りを行うことで、自然に触れ、体力作りにもなりますし、これをきっかけに農家を志す生徒も出てくるかもしれません。この具体案にあるように、道の駅と連携し、野菜を安く売れば、無農薬ということで売り上げはあるでしょうし、地域に学校をアピールするチャンスになります。

災害時にも備蓄食料として扱うこともできます。土は聚富の校舎に良質の土があるので、そこから運べばコストもそこまでかからないと思います。

これらのことは可能でしょうか。新しい学校のイメージをお聞かせください。

最後に、統合後に使わなくなる校舎の利用についてです。

学校統合後、残る校舎はどうする方針になっているかお聞かせください。

○議長

鎌田教育長

○鎌田教育長

私のほうから日隈健太議員のご質問にお答えいたしたいと思います。

厚田区の学校統合に関するご質問であります。

最初に統合校の場所についてであります。統合校はみなさん子どもたちの学びの場であるというのが第一であります。それと同時に地域住民が集い、様々な活動等をする地域コミュニティの拠点になることが期待されているところで、そのためには厚田区の住民の多くが集中する厚田区別狩地区を候補地として最も相応しいと考えたところでございます。またこの地域には支所や消防のほか郵便局、診療所、農協、漁協、商店などの集積があることから、ふるさと教育などの地元を知り、学ぶという面においても専門的な知識や技能を持った地域の方々の協力を得やすいといったメリットもあると考えています。こうした点などを総合的に考慮して統合校の場所については只今も申し上げましたように厚田区別狩地区のエリアにと考えているところでございますが、一方では津波や河川の氾濫、あるいは土砂崩れなどの災害を想定したときに備え、高台に避難所を確保する必要があります。そのため現在すでに避難所として指定されている厚田中学校の場所に統合校を建設すれば、引き続き避難所としていざというときに地域住民の方々を速やかに収容できるなど地域防災の観点からも相応しい場所と判断したものでございます。

なお補足いたします。ここはご承知のように平成30年にオープンする予定の道の駅にも近い場所になるわけで、これから豊かな自然や文化あるいは資源などを生かしたふるさと学習や実際に働くことを体験できる学習の場としても多様な機会を満たす効果が今まで以上に期待できるというメリットもあると考えています。

次に新しい学校のイメージですが、統合校には厚田区内の小中学校を単にひとつの学校に集約するだけではなく、地域の事情にあった公共サービスの提供の形として、現厚田小にある地域開放型図書館、あいこぜ図書館や保育所の機能を持たせるなど、施設の複合化の考えは効果的、効率的に整備するという観点からも今後の必要な検討軸と想っているところでございます。

もちろん本来の学校施設としては皆さんがしっかり学べる場として学習活動に支障がないように充分配慮することはもちろんですが、逆に一緒に建物に入ることにより多様な世代間交流やふれあいが始まり、皆さん自身の心が豊かになる、あるいは幼児たちにとっても大きなお姉さん、お兄さんへの憧れや尊敬の気持ちが芽生えるなどそれぞれの成長に大きく影響する相乗効果も期待されています。

そういったことがあいまって学校自体がその地域のすべての子どもたちの学びの支援に繋がっている点もあることを忘れないでいただきたいなと思っているところでございます。

学校菜園、非常に良い考えだと思っています。自然に親しみ、食への感謝も含め野菜作りは大切で、市内でもすでに取り組んでいる学校も多いわけで、新しい学校でも充分実現可能で今後の検討に値すると思っています。

近々厚田区内の児童、生徒の皆さんにどんな学校にしたいかというアンケート調査を予定しています。そのときに様々なアイデアを是非出していただきたいと考えているところでございます。皆さ

んからの素晴らしいアイデアをお待ちしております。

最後に校舎の跡利用についてであります。今回の統合に伴う制度的な仕組みの取り扱いの関係もあります。今のところ白紙であります。まだまだ活用できる施設ばかりですので、今後の地域の皆さんの考えなども充分聞きながら、どのような形で利活用、有効活用できるかをしっかり検討していきたいと考えています。私からは以上です。

○議長

ただいまの答弁について、再質問はありますか。

再質問がないようですので、最後に一言お願いいたします。

○聚富中学校 日隈議員

使わなくなる校舎にはスペースが充分にありますし、机や黒板、図書もあるので統合後解体するのではなく公民館や、災害避難場所、塾や図書館などとして開放するなど、地域の結束を深めるような使い方をしていただきたいと思います。ありがとうございました。

○議長

以上で、聚富中学校の提案と質問を終わります。

続きまして、厚田中学校の武田議員、田中議員、よろしく申し上げます。

【5 議事(4)厚田中学校】

○厚田中学校 田中議員

私たち厚田中学校からは、道の駅による地域の活性化についてご質問します。

3年後、石狩市厚田に初の道の駅ができると知り、たくさんの人に来てもらい、地域の活性化に繋がれば良いと私たちなりに考え、たくさんアイデアが生まれました。そのアイデアが、道の駅に深く繋がり、参考になればと考えました。

まず考えたのが、ゆるキャラを使用した市のPRについてです。

道の駅で、さけ子とさけ太郎のゆるキャラグッズを発売するにあたり、限定品を発売するというのはいかがでしょうか。限定品を売ることにより、ゆるキャラに興味を持ってもらい、それを目当てに客足が向くことを期待できると思います。

その他にも、お客さんを呼ぶ方法として、季節に合わせた冷温メニューを出すことを考えました。

例えば、夏はしそサイダー、冬は石狩汁を駐車場近くで売れば、売り上げも伸び、地域のPRになると思います。また、朝市直送の新鮮なものを道の駅で売れば、なかなか朝市に行けない人でも気軽に買いに行けると思います。

○厚田中学校 武田議員

そこで質問です。

まず市長はゆるキャラを使用した市のPRについて、どうお考えですか。

次に道の駅では、どのようなものを売り、どのように人を呼ぼうと計画していますか。

最後に地域の人、特に生徒が関わることについてご質問します。

参加型のイベントを行えば、たくさんの方が集まって交流の場になり、道の駅のさらなる活性化に

もなると思います。先ほど、学校統合に関する質問の際に、学校に畑を設置して野菜を作ってはどうかという提案をしましたが、道の駅で学校でつくったものを売るなど、ふるさと学習で私たち中学生が関わったら、良い体験になるのではないかと考えました。

そこで、学校と道の駅の関わりについて、お考えをお聞かせください。

○議長

田岡市長

○市長

武田紗優貴議員、田中幸乃議員にお答えを申し上げます。

道の駅の件についてですが、ゆるキャラを利用したPRということについてでございます。

市長の年代になるとなかなかゆるキャラというのは分かっているようで分かっておりません。ただ昨日ニュースで彦根で全国のゆるキャラ約200体が集まって、ひこにゃん生誕10周年を記念して大変盛り上がったイベントがあったというのをニュースで耳にしました。改めてゆるキャラのPR力というのはすごいなと思っております。

また東京駅に行くときまモンが真ん中にあります。東京駅にどうしてくまモンがあるのだろうと思うだけで、そこに行ってみんなが写真を撮るということで、確かにゆるキャラはキモかわいいを含めて、若い人には訴える力があるように承知しております。

石狩でもさけ子とさけ太郎に色々な形で東京や本州各地のPRに参加をしていただいております。ただうちのさけ子とさけ太郎は自分で歩けません。これが本当で、ちょっと裏になってください、ちょっとあそこに行ってくださいというのも大変で、設計ミスじゃないかと思いますが、でもそれはそれでまたちょこまか歩くというのが魅力らしくて、石狩の小さな子どもたちにとってはさけ子とさけ太郎がイベントの会場に来ると、わあと集まってくるのを見るとやはり力があるのだなと改めて思っております。

そういった新しい視点でつくられたPR力というもの、PR技術というものをこれから様々なかたちで考えていかなければならないと思っております。ゆるキャラも当然ですが、そういったものを含めて若い皆さんの知恵を是非いただきながら、これからはもっと若い人が道の駅を活用して、利用していただけるように、同年代の皆さんが私どもの販売戦略に加わっていただければ本当にありがたいと思っております。

それから、これからどのような人たちをPRの対象にするか、誘致しようかというご質問がございました。私は少なくとも世界を相手にしようと思っております。浜益のあの素晴らしい自然、それから厚田の素晴らしい景観、石狩が持っている約80km近い海岸美、それから暑寒別がもっている山々の摩訶不思議な魅力、未開の山岳地帯、それから歴史街道といってもいいほど鮭とそしてにしんの文化が伝わりアイヌ文化が残って国の史跡があるなど素晴らしく、そこに行くと自分の小ささを感じるほど威圧感、訴える力を持っており、道の駅などを考えてみますと、参加型・滞在型の新しい観光モデルがここでできると思っております。

特に北米型あるいはヨーロッパ型という観光で、1日で帰らないあるいは買い物ツアーということではなくてじっくりその魅力、資源と触れ合ってほしい。あるいは人々と触れ合ってほしいという意味で、宿泊施設を安いサービスを供給する。あるいは自転車の活用等を含めて、新しいスポーツの分野で若い人たちがこの地域に入って自然と触れ合ってくれれば嬉しいと思っております。

何かそこで地域の特性の食べ物をという従来の道の駅とは若干意味合いを異にして、地域のサービスの拠点にする、地域みんなが道の駅をいろんな形で利用していただく。例えば、資料館を備えて、厚田地区の誇りとなる歴史や厚田浜益地区のにしんの歴史を広める、あるいは子母澤寛(しもざわ かん)を冠した文学賞、平和賞を作っていくというようなことを含めながら、新しい道の駅の姿を作っていきたいと思っています。もちろんこれからは経営の難しさを感じつつ、是非若い皆さんに加わってほしいと思います。その他のご質問につきましては教育長から答弁を申し上げます。以上です。

○議長

鎌田教育長

○鎌田教育長

ただいま市長の方から道の駅の見通しあるいは、期待される効果などのお話がありましたけども、私からは学校との関わり、先ほど日隈議員のほうにも少し触れましたけれども、皆さんが身近な地元の道の駅として町の歴史、あるいは文化、特産品、産業などを学ぶいわゆるふるさと学習を深めたり、職業体験やボランティア活動などを行ったり、様々な学習活動の広がりが想定できます。さらに自分たち自ら、例えば地域活性化をテーマにアイデアを出し、実行に移すということになれば仲間と協力して学ぶ楽しさも体験、体得できるわけであります。ご質問にもありました、自ら作った野菜をここで直に販売するなど、その目的や意義をしっかりと踏まえて意欲的に取り組むならば、多くの大人たちの賛同も得られるでしょうし、その実現に向けては学校も地域も協力は惜しまないはずだと思います。厚田区の地域活性化の拠点としての道の駅は、皆さんにとっても素晴らしい学習の場、そして情報発信の場として大いに活躍、活用していただくと共に、地域の皆さんと協力しながらその魅力を全道、全国に発信していただきたいなと心から思っているところでございます。私からは以上です。

○議長

ただいまの答弁について、再質問はありますか。

再質問がないようですので、最後に一言お願いいたします。

○厚田中学校 武田議員

道の駅が建設されることで、たくさんの人に来てもらい地域の活性化に繋がれば良いと思います。そして私たちのアイデアも参考になれば嬉しいです。ありがとうございました。

○議長

これで、厚田中学校の質問を終わります。

以上で、「石狩みんなをつなげ隊」からの質問を終わります。

発表を終えた2校に大きな拍手をお願いします。

続きまして、「安心してください～安全ですから！党」の質問です。

よろしくをお願いします。

まずは、花川南中学校の北村議員、秋山議員、小泉議員

よろしくをお願いします。

## 【5 議事(5)花川南中学校】

### ○花川南中学校 秋山議員

こんにちは。「安心してください～安全ですから！党」は花川南中学校と樽川中学校、石狩南高校で構成されたグループで、石狩に住み続けたい、住んでみたいと思うまちにするには安全、安心で暮らしやすい事が大切だと思い、話し合いを進めてきました。

まずは、花川南中学校から提案しますので、前向きな答弁よろしくをお願いいたします。

### ○花川南中学校 北村議員

私たち花川南中学校からは、交番の誘致についてご質問します。

現在石狩には、2箇所交番と5箇所の駐在所がありますが、特に花川南と北地区では不審者の数が非常に多くなっています。不審者の被害に合うのは、小中学生が多いのに逃げ込めるはずの交番が1つずつしかないこととなります。

さらに6月には花川南で殺人事件が起こるなど、地域へ目が行き届いていないと感じています。

そこで質問いたします。

石狩市に交番を新たに誘致する考えはありますか？

また、誘致に向けてこれまで取り組んできたことや、今後に向けてどのように考えていますか？

### ○議長

田岡市長

### ○市長

北村帆花議員、秋山光月議員、小泉瑠華議員のご質問にお答えを申し上げます。

まず交番の誘致についてであります。

新たな交番の誘致については記憶にないほど以前から何度も毎年、地域の皆さん、あるいは各団体、交通安全の団体、学校の先生方と一緒に北警察署あるいは道警本部などに幾度か建設してほしいと陳情に行っております。まず石狩湾新港に約700の企業があり、昼間の人口はおそらく2万人前後で、空白地帯であることから、そういったところについても交番がほしいという話から延長的に石狩の警察署を作りたいという話に少しずつ変わってきました。

交番を作ることが非常に厳しいという北海道側からの答えもあった関係上、交番が駄目なら警察署を作ろうということで今議会と一体となって動いております。現在のところ道の基本的な考え方は、北海道にある警察や交番のどこかを廃止したら新しい交番や警察署を作る、プラス北海道全体で新しい交番や警察署を作るという考え方は基本的に持ち合わせていないということで、北海道においてスクラップアンドビルド、どこの地域の交番、あるいは警察署をどこかと統合する、石狩が可能かどうかという検討をするということで、去年初めて道警のほうから基本的な考え方とその方向性が示されました。どこに作るかということについてはまだ道警本部の方から答えは来ておりませんが、私どもが行く度に石狩は非常に厳しい状況にあると言われております。

それにめげることなく、市全体で改めて警察署の誘致について道ないし道警本部のほうに要請活動に行ってお参りしましたが、前向きな答えは残念ながらいただけませんでした。

北警察署のほうからは、非常に取り扱い事案が多く、また、北警察署は札幌市内9警察署が管轄す

る区域のほぼ 50%にあたる、広大なエリアであり、分署化が必要ではないかという声が北警察署内にあるけれども、これを決めるのは道警本部の考えで、本部の方向性について何とか私たちも協力するから石狩市も頑張ってくださいというようなコメントまでいただけるようになりました。なお一層これについては努力をしていかななくてはならないと思っております。

しばらくの間、市では防犯カメラや防犯灯を増やすといったようなこと、あるいは市民町内会の皆さんのお力を借りてパトロールの強化を図っていく、こういったことを進めていきたいと思っておりますが、確かに皆さんのお困り感は具体的に起きているだけに、身近な問題として何とか実現の方向に向けて一層の努力を行って参りたいと思っております。以上になります。

○議長

ただいまの答弁について、再質問はありますか。

花川南中学校秋山議員

○花川南中学校 秋山議員

石狩に警察署を誘致するにあたって私たちにできることはありますか？

○議長

田岡市長

○市長

かねて、まちの皆さんに要望書に署名をしていただきました。道警本部の皆さんにはその熱意を要望書の厚さで感じていただきました。石狩が如何に祈っているか、あるいは交通安全期間中に市民がどのくらい道路に出て一緒になって啓発活動をするか、そういうところを警察としては見てくれております。ですから是非そういった交通安全活動あるいはアンケート調査や要望書を出すときに参加をしていただければ、若い人の声に加わるとおそらく倍になると思います。その倍の声が政治を動かす、あるいは知事や道警本部長の考え方を従来のようにスクラップアンドビルドではなく、複雑な世の中、犯罪が多発する現実を考えてこのままではいけないのではないかとパイをもう少し増やさなくてはならないと考えてくれるかも分かりません。これから市や各団体が行う交通安全運動のときに市としても若い方の声を届ける仕組みを考えますので、是非お力を貸していただければ大変ありがたいと思います。以上です。

○議長

ほかに再質問はありますか。

再質問がないようですので、最後に一言お願いいたします。

○花川南中学校 小泉議員

私たちにできることは、私たちは自分の身を守るために先ほど言っていたアンケートや交通安全の旗を持つなどをして自分の身を守っていききたいと思っております。ですので、市での活動もよろしく願います。ありがとうございました。



○議長

以上で、花川南中学校の質問を終わります。

ここで10分間休憩いたします。再開は15時25分といたします。

○副議長

休憩前に引き続き、会議を再開いたします。

藤本議長に代わり、ここから議事の進行を行います、副議長の花川南中学校の北村です。よろしくお願いいたします。

続きまして、「安心してください～安全ですから！党」の石狩南高校の今橋議員よろしくお願いいたします。

#### 【5 議事(6)石狩南高校】

○石狩南高校 今橋議員

私たち石狩南高校からは、学校前の街灯設置についてご質問します。

私たちは、石狩に住みたい・住み続けたいと思えるまちにするためには、安全であり、安心して暮らせることが大切だと考えます。私たち石狩南高校では、バス通学のほか自転車で通学する生徒も多くいますが、部活の帰りなどには特に歩道が暗く、歩行者との接触や治安について心配されるところです。実際に自転車の事故も報告されています。

そこで、石狩南高校前の歩道そして石狩で街灯の少ない場所に新たに街灯を設置する予定があるかについて、お伺いいたします。

○議長

田岡市長

○市長

今橋議員のご質問にお答え申し上げます。

街路灯についてであります。この街路灯は主にバス路線に設置されております。その多くは高さが約8mのポール式で車道を照らすという役割を持っています。これまで道路を整備するときには車道用の照明を基本に設置をしてきました。このため歩道用の街灯については利用状況に応じながら限られた架線の設置となっております。町内会においても自ら付けている町内会もあるというようなことで、ある意味では設置者の役割分けを行っております。しかしご存知のとおり石狩のまちに入ってくると札幌の市内のようなわけにはいきませんが、確かに夜になると危険であり、しかも暗い場所があり、登下校の道路については是非これからも改善していきたいと思っております。従いまして、計画的に街路灯の整備については行っていくことになっておりますが、今回のご質問は大変急を要するご質問だと承っております。早速所管部と検討し現予算の中で設置することが可能かどうか検討させていただき、できるだけ希望に沿った形で設置をしていきたいと思っております。以上であります。

○副議長

ただいまの答弁について、再質問はありますか。

石狩南高校の今橋議員

○石狩南高校 今橋議員

ただいまの田岡市長の答弁について再質問をします。

まずは前向きな答弁ありがとうございます。

それでは街灯を設置する際、様々な費用を削減するために街灯の電球をLEDにするというのはいかがでしょうか。LEDは通常の電球に比べて消費電力、電気代が格段に低くなります。また、現在設置されている街灯を修繕する場合でも街灯自体を設置し直すよりは電球だけをLED化するほうが費用は抑えられると考えます。そこで市長は街灯のLED化についてどうお考えですか。また現在LED化を行っているかどうかと、行っていないとしたらその予定についてお伺いいたします。

○副議長

田岡市長

○市長

重ねてのご質問にお答えいたします。LEDにつきましては長持ちする、あるいは消費電力が4分の1ということで市としても何度かそちらの方向に向かって予算を出しております。町内会においても、市の予算を待たずしてすでにLED化を進め、全て終わりましたという町内会も見受けられます。

そのように全体的な傾向としてLED化の方向というのはこれからも進めていきたいと思っておりますが、最終的には市の道路の維持管理にかかるパーセンテージ、予算のシェアの中においてある程度決められております。

したがって一気に沢山作ったりすることはできませんが、年限を区切って計画的に必要な場所から、あるいは地域と共同で半分は地域が持ち、半分は市が持ってくださいというような、様々な方式を考えながらLED化を進めていきたいと思っております。

市ではこれからも少しでも明るい安全安心な住みやすいまちとなるように、LED化をさらに進めていきたいと思っておりますので、ご理解をいただけるようお願い致します。以上になります。

○副議長

ほかに再質問はありますか。

再質問がないようですので、最後に一言お願いします。

○石狩南高校 今橋議員

ありがとうございます。私たち学生が安心して登下校できるように、石狩市民の方たちが安心して暮らせるようなまちになること、今回の私たちの提案を前向きに検討していただけることを期待して石狩南高校からの質問を終わります。ありがとうございました。

○副議長

以上で、石狩南高校の質問を終わります。

続きまして、樽川中学校の藤本議員、福井議員、よろしく申し上げます。

## 【5 議事(7)樽川中学校】

### ○樽川中学校 藤本議員

僕たち樽川中学校からは、生活道路の整備と環境についてご質問します。

### ○樽川中学校 福井議員

現在、僕たちの通う樽川中学校近くの樽川5条地区に、急速に家が建ち始めています。

若い世帯が多いこともあり、小さい子どもが多いですが、道路や歩道の傷みが気になります。安全で住みやすい地域にするために、樽川5条地区の車道や歩道を舗装しなおす予定はありますか。

また、道路に花を植えたり植樹をしたりすることで、景観がよくなり地域の活性化に繋がると思いますが、いかがでしょうか。

### ○副議長

田岡市長

### ○市長

それでは藤本涼平議員、福井誠弘議員のご質問にお答えをいたします。

市の生活道路についてであります、石狩市はこの30年間で人口が7倍になったまちであります。

したがって道路、上下水道、学校の整備、公園の整備、すべての整備が急増加する人口に合わせて都市施設というものを作ってまいりました。今日気がついてみるとそれらの施設すべてで劣化が始まっていて維持管理の費用、あるいは改良費用というのが非常に高まってきております。

市ではこれをこの場所がどうかという前に、この施設全体を、どれくらいのお金がかかってどれくらいの期間で全部整備できるかという計画を作りました。途方もない金額であります。ですからこれから10年、20年かけてインフラというものの整備、改良を加えていかななくてはならないと思っております。

生活道路につきましては、石狩の一番先に市街地が進んだ花川南地区の道路において、亀の甲のような状態でひびが入ったり、割れたり、陥没するというような状況であり、道路に何回も穴を掘らないように、下水道管あるいは水道の管を入れる時に併せて、併せながら道路の整備を進めているというのが実態です。これも今のスピードでいったらこれからまだまだ10年も20年もかかるような予算であります。

国のほうも新しいものを造るのには補助金がつきますが、残念ながら古いものを修理する、あるいは管理するということになると非常に財布の紐が渋い、制度がまだうまくできていないということもあって、思ったほど計画的に直すということはなかなか難しい状況にございます。

従いまして優先度の高い花川南地区にとりあえず集中しております。樽川は平成9年、石狩市全体から言うと比較的新しい地域であります。ただ泥炭地ですから、道路にかかる様々な作用というものを考えると一様には言うことができませんが、やはり状況としては大変厳しい土地と思っております。

実態に即しながら、場合によっては危険度に即しながら行うこともありますが、基本的には計画的に予算の範囲の中で順次平準化を図って、毎年何億ずつというような形で進めていきたいと思っております。

それと街路沿いの花いっぱい運動については、今から20年位前に市民の協働をお願いして、町内会と一緒に街路に花を植えてきました。例えば花川北の若葉通りなどについては町内会がプライ

ドをかけて地域の人たちがみんなで、水を遣り草を取りそしてまた種を取るという仕事をやっています。大変時間のかかるしんどい仕事ですが、地域の皆さんがそのことに愛情を注いで、自分たちのまちが少しでも美しくなるということで、この通りを通る度にすごく綺麗だなという声が出るようになっていきます。

樽川地区においては新しい地域でありますから、地域コミュニティがまだまだそういう意味では進んでおりませんが、町内会の皆さんとともに花川北、南、石狩市内で行われております街路に花を植える運動というの、この地区においてもさらに一層展開して参りたいと思います。中学校の皆さんにはもうすでに様々な形で協力をしていただいておりますが、これが地域活動に広がるとさらに地域が綺麗になっていくと思っております。以上です。

○副議長

ただいまの答弁について、再質問はありますか。  
再質問がないようですので、最後に一言お願いいたします。

○樽川中学校 福井議員

私たち樽川中学校生徒会で花や木を植えることを検討し、地域の活性化に貢献していけるよう努力していきます。ありがとうございました。

○副議長

これで、樽川中学校の質問を終わります。  
以上で、「安心してください～安全ですから！党」からの質問を終わります。  
発表を終えた3校に大きな拍手をお願いします。  
続きまして、「石狩の現状に“ちょ、まてよ”隊」の質問です。  
よろしくをお願いします。  
まずは、石狩中学校の梅津議員、齋藤議員よろしくをお願いします。

【5 議事(8)石狩中学校】

○石狩中学校 梅津議員

こんにちは。「石狩の現状に“ちょ、まてよ”隊」は石狩中学校と浜益中学校、石狩翔陽高校で構成されたグループで、「石狩をPRし、より活性化させる」をテーマに話し合いを進めてきました。なぜ、このグループ名になったかというのと、“ちょ、まてよ”のフレーズといえば、解散を発表してるSMA Pの木村拓哉が残した有名なフレーズです。その木村拓哉が僕たちの班に偶然います。浜益中学校の木村拓哉君です。漢字も同じです。そのため、キムタクの“ちょ、まてよ”を使い、石狩市の現状に喝を入れようという意味でこのグループ名にしました。グループ名の説明が長くなりましたが、まずは、僕たち石狩中学校から提案しますので、前向きな答弁よろしくをお願いいたします。

○石狩中学校 齋藤議員

僕たち石狩中学校からは、石狩さけまつりの今後の発展についてご質問します。  
僕が住んでいる本町地区では、石狩さけまつりというイベントが毎年開催されております。毎年、約3万3千人の来場者数で、鮭を使ったイベントやその他の出店で盛り上がっています。さけまつり

が始まったきっかけは、鮭の漁獲量が下がってきた時に、もう一度鮭で石狩市を盛り上げようという目的で開催されました。しかし、ここ近年は毎年似たようなことをやっていて、新たなものがないと感じました。それは、観光客が伸び悩んでいる原因の1つだと思いました。

自分自身、毎年さけまつりに行っていますが、焼鳥やお好み焼きなどの出店に行くだけで、さけまつりというのに、鮭に関する出店やブースには行きません。そのため、大きめの町内会のお祭りのように感じていました。

そのため、僕たちが通っている石狩中学校の近くで開催されるさけまつりをもっと石狩らしいイベントにするなど、外にPRできる特徴的なお祭りにしたいと考えました。歴史ある祭りで、さらに「石狩市といえば鮭」というイメージは、市民のみでなく、市外の人も認識していることではありますが、さけまつりをもっと石狩らしい、他とは違う特徴的なイメージを持ってもらうイベントにすることにより、来場者も増えて、本町地区だけでなく市全体が盛り上がり、石狩市の活性化につながると考えます。

そこで、市長に伺います。

今年のさけまつりは、天候にも恵まれ、来場者が例年より約1万人増え、約4万2千人と新聞に書いていました。しかし、昨年までの数年間を見ると、来場者数やまつりの内容など、変わっていないのが現状です。今後、もっと活気のあるさけまつりにするために発展させるなら、どのような祭りにしていきたいとお考えでしょうか。

#### ○副議長

田岡市長

#### ○市長

梅津祐太議員、齋藤佑馬議員のご質問にお答えいたします。

石狩のさけまつり、今年も4万人を越える来場者があって大変盛会であったという評価を頂くと同時に、事務局の観光協会の皆さん、あるいは来場者の皆さん、それから私もその1人として思っておりますが、どうも地域の魅力を発信するお祭りには遠くなってきて、何人が来たかということがお祭りの評価になっているのは寂しいなということでここ2,3年話が出ておりました。新聞にも出ていたように、今年は運上屋に石狩ガイドボランティアや郷土史研究会の皆さんが石狩の鮭の歴史の展示を行ったり、囲炉裏を再現したり、それからすぐそばにあります尚古社もずいぶん記録的な入り込みだったそうでございます。石狩全体に残っております文化史跡というものは、大きな火事が3回あったまちで、ほとんど消滅したと思っていましたが、相当数残っております。弁天社の手水鉢についても京都の専門家にご依頼して江戸時代に石狩に持ってきたときと同じようなものに復元をしましたが、それをガイドする人がいないから、地域の遺産というのにどのような価値があるのか、どのようなものがあるのかというのが伝わっていないということで、私たちはもう1度歴史的な意味合いを持つ、あるいは俳句の地域としてもその魅力を発信するためにガイドの養成というのがどうしても必要じゃないか、お祭りのときにそういった歴史的な意味合いを持つイベントというものを特徴的に出していく必要があるということについては、観光協会などを含めて皆さんと話し合いをさせていただいております。

ただ、今まで大変多くの方が来てそこで商売をされている皆さんに、次のお祭りから石狩の歴史を中心としたお祭りとするので参加をご遠慮くださいということもなかなか言いづらいのも現実でござ

いますので、調整を図りながら一方で、郷土史研究会あるいは市の教育委員会の資料室のメンバーの皆さん、地域の皆さんが語り部となって発するようなお祭りを作り上げて行きたいと思っております。

明治10年の石狩の缶詰は日本の西洋式缶詰の最初のまちです。そのイベントの中にも缶蹴りのイベントがありましたが、残念ながらやっているほうもそれから参加している人も単なる缶蹴りになってしまっています。歴史的な意味合いがほとんど伝わっていないという反省も踏まえて、これからイベントのあり方についても一度よく検討していただきたい、ということは観光協会のほうに申しあげました。

もちろん市も主体的になって、一緒になって知恵を出して地域の皆さんがもう少し参加していただいて応援をしてくれるお祭りに変えていきたいと思っております。以上です。

#### ○副議長

ただいまの答弁について、再質問はありますか。

再質問がないようですので、最後に一言お願いいたします。

#### ○石狩中学校 梅津議員

これからもより良いお祭りになるよう、前向きな答弁ありがとうございました。

#### ○副議長

以上で、石狩中学校の提案と質問を終わります。

続きまして、浜益中学校の木村議員よろしく申し上げます。

### 【5 議事(9)浜益中学校】

#### ○浜益中学校 木村議員

僕たち浜益中学校からは、石狩市の特産品を使った商品開発についてご質問します。

石狩市は野菜や魚介類など、資源が豊富にあるまちです。また、今年浜益中学校と地域おこし協力隊、地域の方々に「浜益フォーラム」を開催し、「浜益に人を呼ぶには」をテーマに話し合い、浜益で有名なふじみやのどら焼きにアイスを挟んだ「浜どらアイス」を考案し、浜益みなと祭りで準備した160個を完売しました。

浜益フォーラムでは、世代問わず、子どもからお年寄りまで話し合い、製品の考案、製造、販売までできたことはとても良い経験ですし、このような取り組みは今後のまちづくりで大きく活かされることだと学びました。

また、現在厚田では道の駅の建設が進められていますが、他市町村の道の駅では、そこで獲れた野菜や魚を売るだけでなく、加工したグルメなども売られているのをよく見ます。そのため、石狩市でもせっかくなら「石狩バーガー」に次ぐ商品の開発に力を入れるべきではないかと考えます。石狩らしい商品があれば、市内だけでなく、市外からの観光客も増えるひとつの方法と考えました。

そこで、市長に伺います。

1つ目は、浜どらアイスのように、石狩市の特産品を使い、新たな商品を開発し、それをPRすることで、さらに石狩市が活性化すると考えます。

たとえば、僕たちが住む浜益には、ピーマンなどの野菜、魚介類、浜益和牛など、地域資源が豊富にあるので、それらを使って商品開発をすることにより、浜益がPRされ、多くの人に来て浜益が活性

化され、それにより石狩市全体も活性化すると思います。

そこで、現在の商品開発の取り組み状況について、また、まちを活性化させるために新たな商品開発という分野で、今後どのような取り組みをしていきたいと考えているか伺います。

2つ目は、浜益フォーラムのように、お店の人だけではなく、子どもからお年寄りまで、地域全体で、話し合いをし、たくさんの人の意見を聞きながら、まちづくりのアイデアを考えることは、今後の石狩市にとっても重要なことだと思います。そのことについて、市長はどう考えているか伺います。

○副議長

田岡市長。

○市長

木村拓哉議員のご質問にお答えを申し上げます。

道の駅というひとつの大きな新しいプロジェクトが始まるにあたって、厚田あるいは浜益地域における観光資源をこれからどう生かすべきか、ということは厚田区地域協議会において数年をかけております。

また浜益地区においても地域協議会、あるいは漁協青年部の皆さんが努力されて、様々な商品開発やイベントのあり方について提案、検討を進めている最中でございます。したがって場所は厚田になりますが、私どもはオール石狩という、石狩にあるものを商品化するということについて検討を進めているところでございます。

その主力となるにはやはり具体性ということで提案だけでは駄目で、実際にこういったものはどうですかという味見の段階まで行かなくては事業になりませんので、新港にあります企業の力を借りる、あるいは厚田においてはすでに中華饅頭が商品化されて、なにか今年1年間売れ行きがよいそうですが、それらの味付けなどについても専門のタレ屋さんをお願いして行っているというようなことを含めて商品開発は今、緒についたところです。

実際、道の駅ではおそらく200品目くらいはないと、店としてお客さんに魅力度を発することができないということです。例えば石狩の産物と厚田浜益の産物をどういう風に掛け合わせた6次産業化ということを一層進めるためにはということで、現在この仕事に携わっている担当者、あるいは支所の皆さん、それから地域協議会の皆さんが生産者と膝詰めで様々な話をさせていただいております。

東京における全国の重点道の駅のPR合戦のときに、石狩から寒塩引を持って行きました。寒塩引というのは鮭の江戸時代の製法によって作られたものです。会場からわぁという声が上がりました。もう他を圧倒するくらい訴える力がありました。それと同時ににしんの時期だったものですから、にしんの数の子の山を作ったり、甘露煮を持っていったのですが、もう圧倒的に全国の皆さんにとってはにしんや鮭というものがいかに商品価値のあるものかということが分かりました。

これらを含めてこれからの商品開発を進めていきますが、例えば浜益において1番売れると関係者の中で考えておりますのはおにぎりです。浜益のお米を使ったらおそらくそれだけで勝負できるのではないかと、中に昆布を入れたらさらに様々な評価を受けることになるのではないかとというような話を進めておりますので、地域のお母さんやお父さんの知恵も必要であると同時に食べる役になる若い人たちの感性というものも必要だと思います。

これから開発された食品が味見の段階を迎えたときにぜひ参加してください。中学生の皆さんの口に合うのか合わないのか、そういったアンケート調査もしたいと思っておりますので、お願いをした

いと思います。

また地域に私たちが気がつかない様々な郷土の食べ物が、伝統的に残っているものがあると思います。それをどうブランド化するかということが次の仕事だと思っております。例えば飯寿司といったらハタハタ、とこうなりますが、厚田浜益はハタハタだけではないということは誰でも知ってるわけですから、それらを含めると例えば麴を作るというのはどうだろうと、麴を作ることによって他の1次産品に付加価値をつけることができるのではないかというようなことも含めてですね、これから1年間本当に待たなしますが、来年の今頃になるともう答えを出していかなくてはならないと思っております。

地域の全員が、あるいは若い人たちの舌が、それから若い人たちのアイデアがこれからこの道の駅をあるいは地域の産業雇用を活性化するかということになっていくと思いますので是非力を貸していただければと思っています。以上であります。

#### ○副議長

ただいまの答弁について、再質問はありますか。

再質問がないようですので、最後に一言お願いいたします。

#### ○浜益中学校 木村議員

浜益フォーラムのような機会を石狩市全体として取り入れれば、商品開発という分野だけではなく、市全体の活性化に繋がると思います。前向きな検討をお願いします。ありがとうございました。

#### ○副議長

以上で、浜益中学校の質問を終わります。

最後に、石狩翔陽高校の橋本議員、星議員、よろしく申し上げます。

### 【5 議事(10)石狩翔陽高校】

#### ○石狩翔陽高校 星議員

私たち石狩翔陽高校は、石狩市の子育て支援の現状と情報発信に関して質問します。

私たちは、学校で石狩の子育て支援について学ぶ機会がありました。

石狩の子育て支援施設やサービスはとても充実していて、実際に利用している子どもたちも生き活きとしていて、市長が子育て支援に力を入れているというのを実感しました。普段あまり関心を持たない子育て支援について知る良い機会となりました。私たちはこの機会に、石狩の子育て支援について調べ、考えた時、気になる点が2つありました。

1つ目は、充実した施設やサービスがあるのに、それらの情報が十分に行き渡っているのかということです。なぜそう思ったかと言いますと、親や知り合いの大人の方に話を聞いてみた際に「子どもが生まれた時などは、多くの情報や資料が渡されるが、それ以降はあまり情報が入ってこない」と聞いたからです。

次に気になったのは、施設見学の際に職員の方の話の中で「石狩市の税金で運営している施設は札幌の人の利用を断っている」という趣旨の話を聞き、実際はどうなのだろうと疑問に感じたことです。

以上の、2点が私たちの気になった点です。



そこで質問いたします。

調べた範囲では、石狩市のほとんどの施設等は札幌市民でも受け入れていると思うのですが、実際のところはどのようなのでしょうか。私たちは、公言していることが事実であろうとなかろうと、実際は公言していることとは異なるといった内容が現場の職員さんの口から出てしまう、そのこと自体がよくない点のように思います。確認も含めて、その点をお聞きします。

2点目は、子育て支援関連の情報発信について、最初だけでなく、切れ目なく情報が伝わるよう、さらに充実すべきと考えますが、そのことについて市長の考えを伺います。

#### ○副議長

田岡市長

#### ○市長

橋本勇太議員、星京輔議員のご質問にお答えいたします。

まず子育ての関係についてであります。少なくとも私たちは、少子高齢化の時代に、あるいは次代の日本を担う子どもたちが、少なくとも地域の中で、社会全体で育っていくことを考えながら、健やかに育つことを願いつつ、政策の順位としては大変上位のほうに置いております。予算的にもあるいは人力的にも町の人たちの力を借りながら進めているということは紛れもない事実でありまして、これからも基本的な方向として子育てに力を注いでいく政策を進めていきたいと思っております。

ご質問にございませんでしたが、この際お話をさせていただきますと、私はやはり社会の利益に繋がる子どもたちの育て方というのは、基本的には家族というものがあながら当然家族では補いきれないものを社会全体で補っていくシステムが、現代においてはごく普通で非常にいい制度だと思っております。しかしその中において子育てというのは、ある程度費用がかかります。その費用の負担のあり方について、何々をすると良いことが分かっているが、その良いことを誰が負担をするのですか、という問題です。

あるいはどの事業を潰してどの事業に充てていくかというようなことで、優先性というものを考えていかななくてはならないと思います。その優位性について二者選択で立ち止まったときには、やはり子どもの政策にできるだけ財源を向けていきたいと思っておりますが、現金のような形で、バス賃がタダになるとか病院がタダになるとかというような方向については、所得や年齢、環境によって違ってくるということを踏まえながら財源とサービスのあり方について若い皆さんにこれからもよく考えてほしいというように思います。プラスこれをやったら良い、プラスこれをやったら良い、プラスこれをやったら良いといったときに、さてほかの業務とのバランスを含めて限られた財源をどうもっていくかという事についても考える必要があると思っております。

ご質問の札幌の方の利用についてですが、基本的には札幌市の皆さんが石狩に来て使えないもの、今思い当たらないのですよね。もしあるとしたら、いっぱいになっていて市民優先で、そういう現場的な配慮の中で時には札幌市の皆さんちょっとご遠慮してくださいというようなケースがなかったとは言いません。しかし基本的に石狩の人が札幌に行っても札幌の人が石狩に来て、双方においてよほど施設がタイトであるとか、特別な事情がない限りは起こらないと考えております。

現に石狩市民図書館は、石狩市民と札幌市民の利用がだいたい5割ずつとなっています。それから、サンビレッジいしかりは7割ぐらいは札幌市民が使っているというような実態もあります。例えば介護施設なんかは「サ高住」というサービス付きの住宅においても最近石狩市外の人が非常に多くなっ

てきておるといふ状況も含めて、私たちは制度上でその地域においてその地域の人しか使えませんという国の制限がない限りは基本的にはどなたでも使えるようにしていきたいと思っておりますので、この点是非ご理解をいただければと思います。

それと情報発信についてであります。これは本会議でもよく指摘される問題です。もっと情報をしっかり出しなさいと。広報や市のホームページで出しますという対応になっておりますが、私は、本当に情報量が足りないのかと言ったら決して足りなくはないのではないかと、むしろ情報というのは有り余りすぎてそこから石狩市の様々な情報をクリアに見えないのではないかと思っております。例えば石狩市のホームページを見て、市長が見てもほとんど分からないくらいたくさん情報が書いてあります。こういう情報の出し方でいいのかなと思うぐらい出ております。

逆に言うと、勉強しなければ出てくる情報を理解することもできないほどたくさん情報が氾濫しております。もっと精査し、もっと分かりやすく、180字以内で出すようなPRの仕方が必要だと思いますし、今の皆さんたちの技術を持ってするとスマホ以外にも様々な手段があると思っておりますので、それらについて必ず石狩市にアクセスするようになっていきますのでこれらの活用を図りながら、努めていきたいと思っております。

また忙しい子育て中の、あるいはなかなか新しい情報社会についてこられない年代の人たちにはペーパーによる情報を出します。でもこのペーパーも、私も70歳になって市から様々なサービスの情報が入ってきますが、こんな分厚い封筒になっています。見ると、市長が読んでも嫌になるのを田岡克介発信で出ているのです。ですから、もう少し情報を精査するということが発信側にとっては必要なことだったと改めて思っておりますが、是非情報化時代に即した提案を更にごいただければ大変ありがたいと思っております。以上です。

#### ○副議長

ただいまの答弁について、再質問はありますか。

石狩翔陽高校橋本議員、星議員。

#### ○石狩翔陽高校 橋本議員

ありがとうございます。

市長の考えをお聞かせいただいたうえで、私たちの子育て情報発信の考えを提案させていただきます。

先ほど市長の考えをお聞かせいただきましたが、私たちも同じ考えであります。私たちの案はTwitterやFacebookなどのSNSアプリを利用して、更に新聞と併用して発信するという案です。ここですね、皆様はプライベート、仕事などでスマートフォンやタブレット使っているという方、手を上げてもらっていいですか。(挙手してもらう)このように、今の社会はスマートフォンやタブレットが普及しています。情報発信にこうしたICTの技術を積極的に導入すべきではないかと考えています。石狩市では既にTwitterで災害情報や道路公園下水道情報を発信していると思います。そして以前個人で「民友新聞」という情報紙があったと思います。スマートフォンは若者、新聞などは高齢者といったように、幅広い世代に情報を伝えることができると思います。また、市内の人はもちろん、希望する市外の人も情報を受け取ることができるので、施設等の情報が分からないといった課題も減ると思いますし、石狩が子育てに力を入れているということも広くPRできると思います。

少し強めにお聞きしますが、この提案に取り組むお考えはありますか。

○副議長

田岡市長

○市長

ご提案をいただきましてありがとうございます。

そのとおりだと思います。私どもも情報化時代を意識しながら進めており、一方で例えば、広報紙の内容を深めて大変厚いものにしております。広報紙のほしい半分がお知らせ記事だということですが、ただ残念ながら30%から40%程度の市民しか見ていないのではないかとということで、まだ発信力が足りない、魅力のある広報紙の作り方を考えていかななくてはならないと思っております。

あい・ボードというのはご存知でしょうか。各施設やスーパーなどの入口にもありますが、これはやはりある意味では高齢の人たち向けに、紙を媒体として広めていくのは古いけど確実な方法であり、正確に伝わる方法で進めております。

それから広報の担当部局につきましては、新聞社と都度石狩の様々な出来事について、時に制度の改正によって個人の負担が変わるものといったものなどについても、事細かく新聞社などに対応させていただいております。

これからは確かにICTを使った時代でありますから、それらの更なる活用というものを進めていきたいと思っております。ご提案のSNSの促進というのはこれからも様々なアプリを活用して、更にわかりやすいスピード感のあるものにしていきたいと思っております。

またTwitterなどについては、イベント等の情報については非常に効果があるものでございますので、場合によってはこのTwitterを薦めております。子育ての問題については非常に専門的でありかつ大切な情報提供の場になりますので、特に気をつけながら若いお母さんたちがちょっとした情報を失うことによって、得るはずの利益、サービス、あるいは子育てによって子どもの健康そのものに直結するような情報を失ってはいけないと思っておりますので、保健師さん、あるいは人的な会話を通して、講演会を通したりするなど、情報化時代の様々なツールを活用しながら提供していきたいと思っております。以上であります。

○副議長

ほかに再質問はありますか。

再質問がないようですので、最後に一言お願いいたします。

○石狩翔陽高校 橋本議員

ありがとうございます。私たちの考えた案が実現されるようご検討をお願いします。僕たちからは以上です。

○副議長

これで、石狩翔陽高校の質問を終わります。

以上で、「石狩の現状に“ちょ、まてよ”隊」からの質問を終わります。

発表を終えた3校に大きな拍手をお願いします。

これをもちまして、全ての学校の質問を終了いたします。

## 【6 石狩市議会議長講評】

### ○副議長

田岡市長、鎌田教育長、市役所のみなさん、今日は私たちの提案を聞いて、質問に真剣に答えていただき、ありがとうございました。

今日の子ども議会を通して、石狩市議会伊藤一治議長から今日の子ども議会の感想をお願いしたいと思います。よろしくお願いします。

### ○石狩市議会 伊藤議長

こんにちは、IYP「石狩の未来を考える子ども議会」の閉会にあたりまして講評を一言申し述べさせていただきます。

まず、最初に藤本議長、それから北村副議長には大変ご苦勞様でございました。また各中学校からの議員の皆さんにも心から敬意を表したいと思います。ご苦勞様でございました。またこの議会を開会するにあたりまして、ご尽力いただきました関係者の皆様にもこの機会をとらえてお礼を申し上げたいと思います。ご苦勞様でございました。

学校の地域性が出てくる非常にしっかりとした質問内容であったと思っております。また、政党名も素晴らしくユニークで、これを見たら何を聞きたいかというのがすぐ分かるような素晴らしい単純明快な良い政党名だったと思います。

まずは「スポーツの極み、俺ら党」は「市民ひとりスポーツ」という石狩市におけるスポーツの分野について、将来性に基づいた可能性を提案していただきました。ありがとうございました。

また、「石狩みんなをつなげ隊」では、現在進行形の石狩それから厚田区における道の駅、そして小中一体校の計画等について本当に参考になるようなご意見もございました。

また次に、「安心してください～安全ですから！党」、我々が日常に議会活動している中でこのことを基本にがんばっている議員さんも数多くおりますし皆さんもそうだと思っております。この中では街路灯等の切実な問題等も出て参りましたし、またそれに対して市長ができるだけ早急に対応したいというような良い答弁も頂けたというような事でよかったですねというような思いで聴いておりました。

そして最後には、伝統ある石狩のいろんなイベントに、将来に向けての地域として元気になるイベントから特産品の開発、そして最後には行政情報の発信の仕方についてまで、多岐にわたってご質問をいただきました。市長もおっしゃいますように、我々もそうですがちょっと情報発信が足りない面が多々あるかと感じておりますので、目からうろこの感がありました。ありがとうございました。

どれをとっても素晴らしい内容で、事前調査を三度も四度もされたというようなことも伺いしておりましたので、非常に熱心に取り組んでいただけたのだなというような思いがしております。皆さんがたの若い視点、感性で提案いただけましたことにつきましては、今後も我々市議会もしっかりと取り組んでいかなければという思いで副議長と話をさせていただいております。

また皆さん方にはあらゆる機会を捉えて石狩市の事業の計画、立案、また事業の実施にあたっては参加をしていただいて、今日のような若い感性での声をお聞かせいただきたいなと思います。

今日のこの機会を通して、質問内容そして質問の姿勢について、私ども市議会も、常任委員長さん方もおられますし、今日はまた傍聴席に市議会議員もたくさん見えております。きっとこの次には皆

さん方をお手本とした姿勢で質問をされるものと期待をしているところでもございます。

皆さん方が安心して暮らし続けられる社会の構築に向けて、私たちも日々、市議会としても努力をしているところでございますので、皆さん方におかれましては、より一層市議会、行政というものに興味を抱いていただいて機会あるごとに我々に大いに意見を述べていただきたいと思いますと感じますので、よろしくお願い致しますと思います。

私ども市議会は11月11日、12日に2日間にわたり4会場において市議会の報告会というものを開催させていただいております。今年はこの一同になろうかと思っておりますけれども、どうぞそういうご案内が参りましたら家族の皆さん方にもご周知いただき、お父さんお母さんにどうぞ、私たちが今日意見として述べてきたことがまた報告会で出るかもしれないので行ってみてくださいというようなことを伝えていただきたいと思います。

それから先月の第3回定例会から市議会の議場の中に、全道的にもあまり例がないのですがパソコンを持ち込んで議会をしております。

今までこんな厚い資料が各テーブルに配られたのですが、今はUSBのメモリで各議員さんがそれを覗くという形に進化しているところでございます。そのように最新式は良いのですが、質問者の顔をあまり見ないで自分のパソコンだけ真剣になって見るような方もいるというようなこともございまして、まだまだ勉強が足りないところもございまして石狩市議会、市民の皆さんに信頼をいただきながら市の発展のためにがんばって参る所存でございますので、皆さん方には是非ひとつ今後ご支援とご理解、ご協力をお願い申し上げて今日子ども議会が非常に活発に、また傍聴席もいっぱいになるくらいお越しいただきましたことに感謝を申し上げまして私からの講評に変えさせていただきます。本当にありがとうございました。

#### ○副議長

伊藤議長ありがとうございました。

続いて、田岡市長がどのように感じたか感想などがありましたらお聞かせください。

#### ○市長

みなさんどうですか、まだ緊張していますか。私たち議会というのは年に4回いつも同じ議員さんとやっているのですが、いかにも緊張が解けるといふ顔見知りで、問題も大体相手が何を言おうとしているか想像がつくということから、一般のまちの人たちは議会や議場というのは緊張感とか本当の話はしてないのではないかと、というような誤解が、東京発の議会のあり方や国会のあり方、あるいは地方議会においても事件の起きている議会だけがニュースに出て、議会というものが緊張感のないものだとか大体マスコミは捕らえがちなところがあって、私は残念に思っています。

今日皆さんが思ったように、心臓の高鳴りと、ここにいることの緊張感は、どの議会においても私たちはいつもそうです。ひとつの言葉に気をつけながら、ひとつの真実を絶対隠してはならないと思いつつながら真剣に答えてやり取りをしています。

議会というのは皆さんの代表の声であり、市長は皆さんに選ばれた執行者として責任を持って答えるという、そういう議会の場というのは非常に緊張感と会話をし、討議をする場であります。その経験をしてもらったということは、おそらく皆さんにとっては貴重な経験をされたと思っています。

選挙に行ってください。いくらなんでも石狩は選挙に行かなさ過ぎる、この議会を経験した人、是非石狩の選挙、国政選挙、石狩の汚名を晴らしてください。投票率を上げることに協力をしていただ

くことを念じて最後のご挨拶にさせていただきます。本当に長時間にわたってありがとうございます。そして今までおそらく経験したことのない、様々な情報が次々と市の職員から与えられてああでもないこうでもない話が合ったと思います。良い勉強です。また皆さんと違う場面で一緒にまちづくりのお話をさせていただければ本当にありがたいと思います。今日はどうもありがとうございました。

○副議長

田岡市長ありがとうございました。

## 【7 閉会】

○副議長

皆さん、お疲れさまでした。

平成 22 年度から活動している IYP ですが、今年は IYP メンバーが子ども議員となり、子ども議会という場で石狩市のまちづくりについて意見表明ができたことを、とても嬉しく思います。

これからも、IYP メンバーになることで出会った仲間や体験できたことを大切に、私たちのふるさとである石狩市の未来を考えていきたいと思います。

以上で、本日の日程は、全て終了いたしました。

これをもちまして、平成 28 年度 IYP「石狩の未来を考える子ども議会」を閉会いたします。

みなさんありがとうございました。

平成 年 月 日議事録確定

議事録署名議員\_\_\_\_\_